

ホームページ上に、昔の太地での暮らしや風景などをエッセイとして公開・運営している「太地っ子の唄」があります。

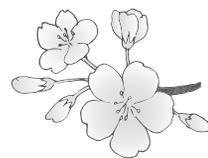
# 「太地っ子の唄」

許可をいただきましたので、管理人さんや投稿された方の文章を一部掲載しています。

URL : <https://taiji.lovepop.jp/>



第340号  
発行日 令和8年3月1日  
●発行●  
太地町公民館



## 雨の日の講堂



秋雨前線が停滞していて朝から結構なザーザー雨が降っていました。玄関の傘置きや下駄箱のスノコ下は傘やカッパの雫で水溜まりになっていました。

夕暮れ時のように暗い朝でここから職員室への渡り廊下のL字にくびれたあたりや二階への階段途中の踊り場階段下の購買室辺りも蛍光灯が煌々として一見、気が滅入りそうな風景ですが案外、私はこの雰囲気大好きでした。

夕方授業のような感じの電気明かりの中先生が教室に来て、授業の前に雨の話をひとつふたつしてくれたりして不思議な団らんで、夢の中の世界に入り込んだかのような感じでした。

ザーザーよく降る雨を時々眺めながら授業を受けお昼の給食を食べ終わった時も変わらず雨でした。

講堂への渡り廊下の両脇も大きな水溜まりでグラウンドは池のよう、鳥小屋や水道のタンク、給食室前の中道も大きな水溜りだらけになっていました。



雨の日の昼休みは講堂が開放されていて1年から6年まで講堂の中のあちらこちらで鬼ごっこやかくれんぼで走り回り大勢の子たちの声や熱気で窓は白く曇っていました。

真っ先に向かったのが舞台袖の道具置き場でした。うす暗い舞台袖は色んな物がある舞台下の真っ暗な空間への入り口にもなっていました。

そこは真っ暗でしたが既に何人もの子供たちの楽しそうな声がありヤンチャ者が何人も潜り込んでいました。舞台下は、ホコリと体育マットの匂いでなんとも危ない感じでしたがそんな所にみんなゴロゴロと溜まり探検したり、積まれたマットで寝転がったりで基地のようでした。

私も仲間に入れてもらって時折舞台へ出て緞帳にぶら下がったり悪さしながら雨のお昼を楽しんでおりましたところ舞台下のプロがこの板を外せば、講堂の床下へも行けると言い出してあっと言う間に開けて入っていったので後にゴロゴロ続き、本当に床下へ出ました。

ただ、長雨と隙間風で肌寒く土臭くて居心地が悪いのですぐにマットの匂いの心地よい基地へ戻ってそのままお昼休みが終わるまで野良猫のようにゴロゴロ〜と過ごすのでした。

思い出の中に残る、楽しかった雨の日の講堂です。

## 小学校六年の玄関



小学校六年、三年は山側幼稚園側の玄関だった。

玄関入ると薄暗い所に下駄箱があった。かさ置場そして校舎側一面下駄箱だった。靴を入れ渡り廊下へ入って行った。

三年生は入ってすぐ左側の廊下へと入って行く。六年は真直ぐ、どんつきまで進んでいく。

途中厄介なものがあるのである。理科室のとなり理科準備室にあるのである。ちょうど廊下を歩いている途中見えるのだ。あれが……

人体標本と人体骨格の標本がこちらを覗んでいるのだ。見なければいいものをついついみてしまうのである。

毛穴が開く、小走りになる。下校時、晴れていれば問題ないが雨降りや、夕方遅くなった時など最悪だった。

見ないつもりで、下駄箱に向かう途中ついつい見てしまう。うえ〜。走ってしまう。

薄暗い中、白い頭蓋骨が浮かび上がる。ほんまあの頃は怖かった。